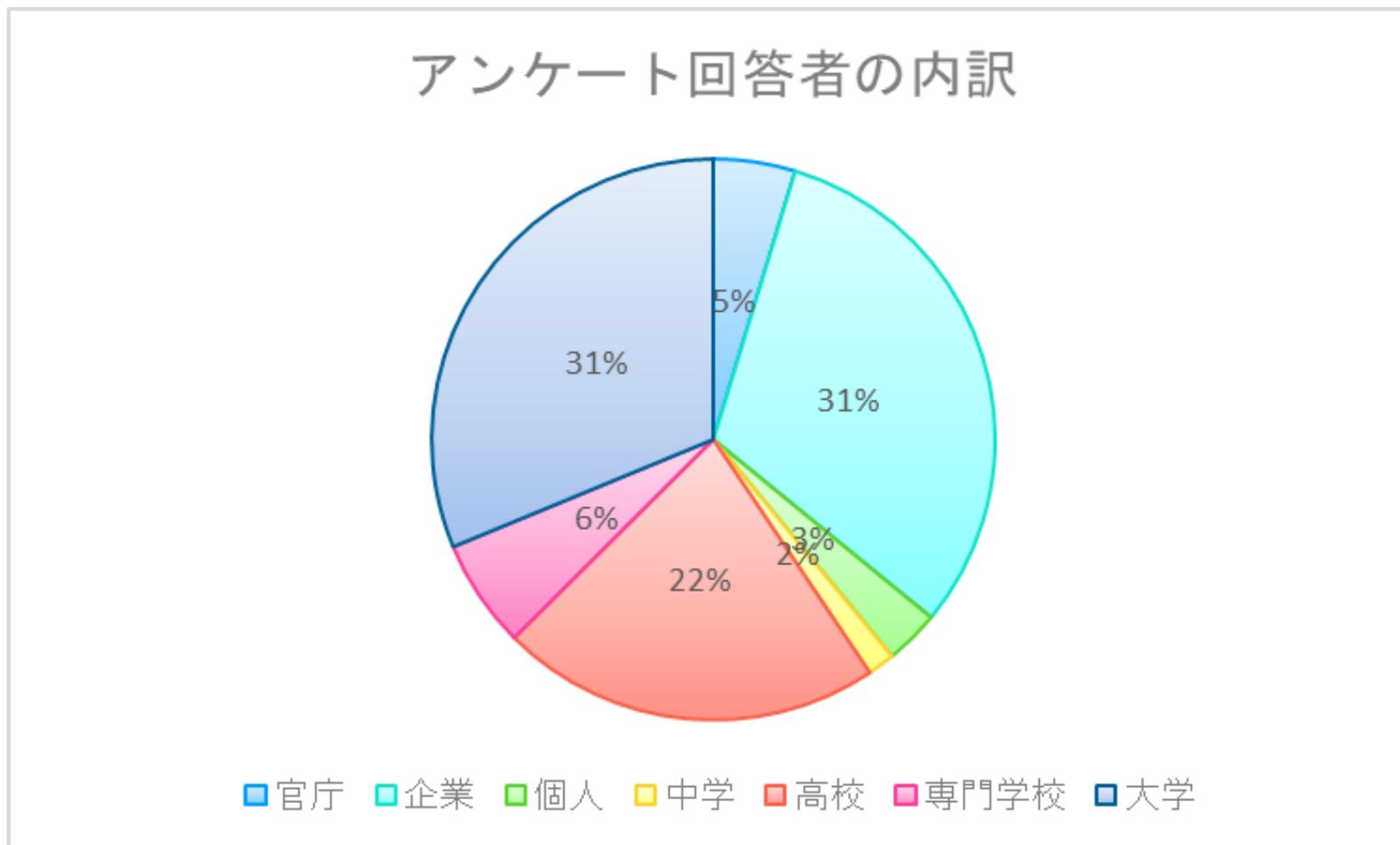


第1回TQE問題解決
オンラインセミナーアンケート
回答者の所属別の分析結果

2021. 3.1現在

回答数 64件

アンケート回答者の内訳



Q1-1. 新学習指導要領における情報活用能力の育成 質問：今後期待する内容があればお知らせください その1

教員について

- 情報を専門とする教員の配置状況の実態を調べていただければありがたいです。
(個人)
- 情報科教員の補充について。
(専門学校)
- 外部人材が活用できるような整備をお願いします。
(企業)
- 高校現場の先生の不安（高度な内容を指導しきれるか、等）に応える内容を文科省の方から発信いただきたいです。
(企業)

カリキュラムについて

- モデルカリキュラムをご提示いただけると助かります。
(企業)
- 情報化における観点別評価【3観点】の具体的な評価方法を知りたい。
(大学)
- 数学Ⅰと情報Ⅰを組み合わせたカマネの例と評価、地理、理科、スポーツ等との融合題材
(高校)
- 問題発見のプロセスで、おかしいな？と思える力は、原因特定の前姿。問題を特定し、解決策を考える方法の一つが、原因の特定だと思えます。
(高校)

Q1-1. 新学習指導要領における情報活用能力の育成 質問：今後期待する内容があればお知らせください その2

体制等について

- 情報に関して、指導すべき内容と教員免許取得のために必要な科目（単位）に齟齬があると思われる（情報の教員は統計や機械学習を学んでいない可能性がある）。教員職員免許法関連法案も見直しが必要ではないだろうか。 (高校)
- コメント：制度設計，ご苦労様です (官庁)
- すみません。PCの不備で聞くことができませんでした。 (企業)

Q1-2. 高等学校の統計教育における新たな展開 質問：今後期待する内容があればお知らせください

統計手法について

- データマイニングの教材例 (官庁)
- テキストマイニングの展望について. (高校)
- R, Pythonの活用方法 (企業)
- かなり教える内容の抽象度が高く、統計にも情報にも熟達した教員でなければ実施することが難しいように感じました。もっと難易度が低く手順化された教育手法についての紹介があればと思います。 (専門学校)

相談窓口その他

- 統計を教材に取り入れる際に、自分が統計の専門家ではないので、躊躇するところがある。そこで、教材開発をしたいと思う教員がいる場合に、その相談窓口を設けて欲しいと思います。 (高校)
- コメント：ご紹介された事例を社会人向けの統計セミナーにおいても活用したいです (個人)

Q1-3. 統計教育のためのSSDSEの開発と活用

質問：今後期待する内容があればお知らせください

SSDSEへの期待

- ご講演中のサンプルデータの提供があれば、参考になるかと思いました。 (大学)
- 様々な授業で活用できるように今後も統計項目を増やしていただきたい。 (高校)
- SSDSEの充実です。 (高校)
- 統計データコンペティションの今後について。 (高校)

Q1-4. COVID-19関連オープンデータの紹介と問題解決への活用
質問：今後期待する内容があればお知らせください

- 生徒の興味を引く科学的題材とその展望について。 (高校)
- 大変面白い内容でした。授業への導入方法の案があれば聞きたかった。 (高校)

Q2. 問題解決教育における困りごとについてお教えてください。

(例：オープンデータの活用方法がわからない，手ごろなテキストがない，教育に適した事例がないなど) その1

具体的な事例

- 高校生でもわかる事例がほしい (企業)
- データの活用事例が少ない。自分を含めて現場での意識が低いように思う。 (高校)
- 具体的な事例が知りたい (大学)
- 事例が非常に少ないこと (高校)
- 中学生向け、高校生向けの成功例（教育プログラム）発表があるとよいです。個別の学校で苦勞するより、全国的にオンライン講座で実施することも可能な気がします。 (企業)

課題設定

- 課題の設定が難しいと思っております。 (高校)
- データを使って分析する価値のあるようなテーマを見つけることが一番難しいのではないかと考えています。できれば生徒が自身でそういったテーマを見つけそれに関連したデータを取ってきて…という学習を行いたいのですが，テーマの設定のところでなかなかうまくいかないという印象です。 (高校)

Q2. 問題解決教育における困りごとについてお教えてください。
(例：オープンデータの活用方法がわからない，手ごろなテキストがない，教育に適した事例がないなど) その2

データの利用

- オープンデータをどのように手に入れるかわからない (大学)
- 簡単に入手でき、加工しやすいデータが少ないと思います。 (官庁)
- 特になし。カリキュラムマネジメントの視点でデータ活用していくことが重要であると感じました。 (高校)

授業の進め方

- 多変量解析の活用方法がわからない (企業)
- 何をもち「問題解決」と判断するのかの設定や、複数の解決案があった場合の評価基準の設定方法 (大学)
- 習熟度別による統計教育の授業テキストのさらなる開発、教員における統計教育の資質・能力の向上を育成できるようなコンテンツがさらに発展・充実していけると幸いです。 (大学)
- テキストや教材が不足していること。 (高校)
- 授業の設計方法の事例が知りたい (高校)

Q2. 問題解決教育における困りごとについてお教えてください。
(例：オープンデータの活用方法がわからない，手ごろなテキストがない，教育に適した事例がないなど) その3

相談等について

- 統計の専門家に相談したいことがある場合、気軽に相談できる場所が分からないことです。 (高校)
- このQ2の例にある3つの項目も気になりますが、一番困るのは指導者に統計的な知識が乏しく、せっかく生徒が行った活動について正しいかどうかの判断ができないことが今までにもありました。こういう場合に、相談できるスーパーバイザーがいてくださると大変心強いです。 (高校)
- 授業を提供できる講師の質、数の確保について。ただでさえ忙しい学校教育の中に科目として乗せられるのか疑問。そのカリキュラム時間の捻出。道徳や他科目の時間が減るのか。習う世代と習わない世代のギャップの埋め方。 (企業)
- 特記ありません。 (大学)

Q3. 今後のTQE問題解決オンラインセミナーについての期待とニーズ、具体的に希望するテーマ等をお教えてください。その1事例について

- 問題解決の指導方法を、具体的な事例から学べるようなセミナーがあればと思います。
(高校)
- 社会の問題をどのように解決しようとしているのかの実例を知ることができると、具体的にどんな授業ができるのかがイメージしやすそうに感じています。
(高校)
- 初めて参加しましたが、興味深い内容ばかりでした。データ活用について今後も発信していただきたいです。
(官庁)

手法等について

- 授業として展開するときのツールについて紹介、模擬授業など
(企業)
- テキストマイニングの今後の展望について。
(高校)
- Pythonを使って実際にデータ分析を行う技術的なセミナー
(高校)
- 品質管理に関するセミナー
(高校)
- 看護や介護などの在宅サービスの需要拡大について。
(大学)

Q3. 今後のTQE問題解決オンラインセミナーについての期待とニーズ、具体的に希望するテーマ等をお教えてください。その2

ワークショップや研修会

- 定期定期に開催していただきたい。可能であれば現地でのワークショップ（授業を想定した）があると是非参加したい。（高校）
- 研修会（官庁）

継続的なセミナーの実施等

- 毎回、充実したテーマのため、特に希望はないが、これからも続けてもらいたい（高校）
- 大変有意義なセミナーであると感じます。今後も定期的にセミナーが開催されると良いなと思います。（高校）
- 恥ずかしながら自分自身が勉強不足で、学習指導要領改定を迎えて、統計の範囲の授業ができるのか不安です。私学の教員でも参加できるセミナーがあればありがたいです。（高校）
- 特になし（企業）

問題解決力として次のような能力が考えられますが、特に重視したい能力はどれでしょうか？（複数回答可）

問題解決で重要視される能力

■官庁 ■企業 ■個人 ■中学 ■高校 ■専門学校 ■大学

